



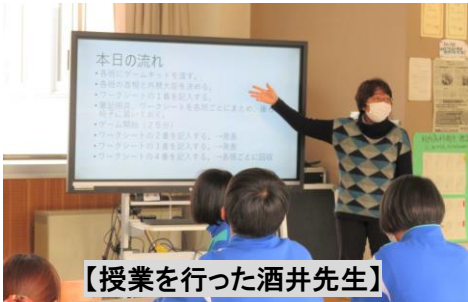
竹林

白河市立五箇中学校だより No. 37

発行 令和2年12月24日
発行責任者 校長 菅野 靖



全校生で本当の豊かさや思いやりを学ぶ「道徳の授業」を実施



【授業を行った酒井先生】



【外務大臣役の生徒の交渉】



【製品の生産性を上げる会議】

12月16日（水）に全校生による「仮想国家による貿易」の授業を行いました。内容は、それぞれの国の限られた資本金や資源を元に、他国と交渉を行いながら指定された製品を生産・販売し、資産を増やしていくという授業です。よい製品を効率的に生産するためには、足りない資源や機材を他国と交渉して手に入れたり、資産を運用しながら協力したりしていかなければなりません。各国に初めから与えられている資本や資源、生産の原動力の人の数にも違いがあります。この授業の本当のねらいは、資源も人の数も違う国々が、世界規模で平等に幸せになるためには、どうしたらよいかを考えさせることにあり、自分の身の回りの状況や世界に目を向け、人権や平等、平和や思いやりを学ぶことにあると思います。授業に取り組んだ何名かの生徒の意見です。

○1年生：製品を通してお金が回り、景気がよくなり、世界の人々が平等で平和な生活ができるといい。

○2年生：自国が豊かになっても、貧困な国が周りにはある。どの国も貧困の差がないことが大切だ。

○3年生：国により人口、資源、技術など格差がある。国同士で協力し、平等で同じ水準の格差のない世界へ。

自分だけでなく周りの人々のことを考え、お互いに思いやる気持ちが、自分も他の国も含めた世界の豊かさへとつながっていくことだと思います。これからの世界を担う皆さんには、そんな世界を創造して欲しいです。

2学期終業式の挨拶

2学期も保護者の皆さま、および地域の方々には、大変お世話になりました。2学期の終業式での式辞を掲載いたします。

長い88日間の2学期も、本日で終了です。2学期も、新型コロナウイルス感染症の影響で、例年通りに行うことができない活動もありましたが、授業や行事への熱心な取り組みにより、生徒の皆さんにとって実り多い学期だったのではないかと思います。

皆さんの授業の様子を見させていただいたとき、ひとりひとりの授業に臨む姿勢が大変まじめで、授業を大切にしている気持ちが皆さんの活動からひしひしと伝わってきました。どの学年も、ペアでの学習やグループでの学習で対話を大切にし、自分の考えを伝え合ったり、協議をしたりして新たな考えを導いたり、考えを修正したりする協働的な学びを行っていました。対話的な活動を通して、深く考える力や根拠を明確にする力、思いを伝える力がついてきていると感じました。

学校の一大イベントである結城祭では、「Be together as one」のテーマで全校生の思いをつなぎ合わせ、協力し合い、皆さんは素晴らしいパフォーマンスを発揮しました。校内駅伝競走大会では、保護者の方々や地域の方々の協力と応援をいただきながら、思いを込めた襷を繋ぎきり、大会を成功させました。一人一人の個人の取り組みを見ても、学習やスポーツ、文化面で輝かしい成果を発揮してくれました。改めて、充実した2学期だったと思います。（※ 各学年の活動の様子については、紙面の関係上割愛させていただきます。）

明日から14日間の冬休みを迎えます。年末年始で何かと忙しい時期になり、2週間はあっという間に過ぎてしまいます。時間を上手に使って、志を強く持ち、自分で決めた学習の計画と生活を確実に実行できるようにしてください。

充実した休みにするためには、健康な体を保つことも大切です。「新しい生活様式」に従い、新型コロナウイルスの感染予防に努めること、規則正しい生活を送ること、事故に十分注意すること、などをしっかりと守り、健康に過ごしてください。また、道路の積雪や凍結がありますので、交通ルールを守り、事故のない冬休みにしてほしいと思います。

1月8日には、全員が元気に登校し、3学期のスタートが切れることを願っています。

